□■養成所ニュースプラス第8号 2025□■

1951(昭和26)年から始まった「社会を明るくする運動」は、今年で75回目を迎えました。7月を強調月間と定め、全国各地で様々な取り組みが行なわれています。

当養成所では、東京更生保護観察所にご協力をいただき、受講生の皆さんに「更生保護出張講座」を動画配信します。8月中の公開に向けて準備を進めていますので、配信の準備が整いましたらメルマガやスクーリングでご案内します。更生保護制度に加え施設内処遇や犯罪被害者支援、難解な犯罪者処遇や非行少年処遇も身近な事例で説明していただく予定です。受験対策としても、是非活用してください。

Plus Quizは「刑事司法と福祉」から「犯罪の成立要件と責任能力」についての問題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかも、あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz

【第37回問題58】犯罪の成立要件と責任能力に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 正当行為、正当防衛、あるいは緊急避難が認められた場合には、有責性がないものとして、無罪になる。
2. 正当防衛とは、正当な侵害に対して、自己または他人の権利を防衛するため、やむを得ずにした行為のことをいう。
3. 弁識能力及び制御能力の両方またはいずれかが欠けていれば、心神喪失となり、またどちらかでも能力が著しく減退していれば心神耗弱となる。
4. 心神喪失の場合には、刑法上の犯罪が成立せず無罪となり、心神耗弱の場合には、刑の言渡しは猶予される。
5. 16歳未満の者の行為については、一律に責任能力に欠けるものとされており、犯罪は成立しない。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・(36-37期生)教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・受講の手引の表紙裏(表紙の次のページ)に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・(第36-37期生)今夏のスクーリングの日程及び会場のご案内です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542898&c=3246&d=99c7>

■Test Info

- 国家試験に関する情報をお届けします
- ・第38回国家試験は、令和8年2月1日(日)です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542899&c=3246&d=99c7>
 - ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542900&c=3246&d=99c7>
 - ・本養成所では、受験対策講座の一環として「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」をwebにて公開しています。
アクセスするためのURLやパスワード等のお知らせは、養成所ニュースプラス第6号配信時にPDFデータを添付しておりますので、確認のうえぜひ受講してください。
URLはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542901&c=3246&d=99c7>
- ※2本目以降の動画も順次公開してまいります。今しばらくお待ちください。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542902&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1542903&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第5回／模擬試験の意味】

ご自身の「現状」を知るためにお勧めしたいのが「模擬試験」です。「まだ勉強を始めていないので」と皆さん言いますが、大事なのはここでベースラインを取ることです。ひととおり知識をインプットした時点で、2回目の模擬試験または模擬問題に取り組みこの間の受験対策の評価を行ないます。

今年は、「過去問トライアル」として、第36期生の皆さんには第37回国試問題に取り組んでもらうことにしました。既に解答は済んでいますか。5月に問題用紙と解答用紙を郵送していますので、まだ行っていない方は、スクーリングまでに必ず解答して解答用紙を持参してください。各クラスで行なう受験対策ガイダンスの時間に回収します。

中央法規の7月スタート版の「2026合格スケジュール」でも、先週末に1回目、19週目の週末に2回目の模擬試験が組まれています。中央法規の模擬試験の申込は、「2026合格応援プラン」合格教材申込書や中央法規のWebサイトから行うことができます。5月に送付した日本ソーシャルワーク教育学校連盟の「国家試験受験対策パッケージ」も今月1日から申込みが始まりました。Test Infoのリンクにありますように、模擬試験1回分が含まれています。どちらも、在宅型の模試です。

「一度、会場模試を受けておくと良い」という先輩の助言もあります。先輩が利用したものとしては、次のものがあります。ネットで検索ができますので、参考にしてください。

- ・福祉教育カレッジ（12月7日実施／東京会場のみ）
- ・東京アカデミー（9月21日実施／札幌、大阪、福岡会場）
- ・日総研（11月24日実施／札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、岡山、福岡、鹿児島会場）
- ・各都道府県社会福祉士会（福祉教育カレッジの問題を使い、会場型で実施する場合あり／既に新潟、神奈川、兵庫、奈良、和歌山県の「士会」は情報公開中）

このように選択肢は様々ですが、在宅型は設定期間の中で受験できるメリットが、会場型は国試本番さながらの体験ができるメリットがあります。それぞれ実施日・期間、パックされている教材の有無、採点結果までの期間等比較しながらご自身に合ったものを選びましょう。

11月頃までに2回目の模擬試験を受けておけば、受験対策の再プランニングも可能です。また、自身が点を取りやすい科目と取りづらい科目も明らかになりますので、科目によって勉強の方法を切り替えることもできます。37回国試の特徴や加わった出題基準を補うツールとしても模擬試験を活用してください。今回は、「知識のインプット」についてお伝えします。

【Plus Quiz 正答と解説】

「刑事司法と福祉」はカリキュラムの見直しで、精神保健福祉士との共通科目となり問題数も6間に増えました。司法と福祉の連携や司法分野での社会福祉士の役割を意識して勉強を進めましょう。従来の更生保護制度と医療観察制度に刑事司法と少年司法、犯罪被害者支援が出題基準に加えられました。

今回は、その刑事司法から犯罪成立要件の出題です。犯罪が成立して処罰の対象となるには、被告人の行為が刑法で犯罪と定められた行為に該当しなければなりません（構成要件該当性）。また、構成要件に該当しても「違法阻却事由（違法性がないとして処罰対象とならない事情）」ですと犯罪にはなりません。そして、責任能力がない者の行為は処罰され

ません。「構成要件該当性」「違法性」「責任性」の3要件が必要であることを押さえておきましょう。

1. ×正当行為、正当防衛、緊急避難は、「違法性阻却事由」に当たるので違法性がないものとして無罪になります。有責性がないからではありません。
2. ×正当防衛とは「急迫不正の侵害に対して、自己又は他人の権利を防衛するため、やむを得ずにした行為」です。「正当な侵害に対して」の行為ではありません。
3. ○心神喪失は、精神の障害により、事物の是非善悪を弁識する能力（弁識能力）がないか、あるいは弁識に従い行動する能力（制御能力）がない状態を言います。また、心身耗弱とは、精神の障害により、弁識能力または制御能力が著しく減退した状態を言います。
4. ×心神喪失は、責任能力がないため犯罪は成立せず無罪になります。心身耗弱は、刑が減輕されますが、刑の言渡しは猶予されません。
5. ×刑法では16歳未満の者ではなく、14歳未満の者に刑罰を科していません。刑事責任能力は14歳以上と定められているため、14歳未満の者は責任無能力となり刑罰を科することができません。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus